

も、こだわりなどの行動に隠れて見えにくいという特徴があります。日常活動では生活の中から見えてくる利用者の行動や表情を基に、利用者一人ひとりの楽しみとは何か、楽しみの要素はどこにあるのか、心が満たされることは何かを考え実施しています。

Aさんは人が後ろを通ることを好み、歩く時は最後尾を歩きます。みんなの動きが見えないと安心できないようで、職員に声をかけられるときも眉間にシワを寄せて嫌そうな表情をすることがあります。しかし、正面や隣に座りやさしい口調で声をかけたり触れたりすると職員の方を見て表情が柔らかくなります。何をするのかわからない状況で声をかけられるのは嫌ですが、表情や動きが見えて状況がわかる時はいいようです。リビングにいる時や散歩の時などは体を大きく揺らしていることがあります。リズムに乗って楽しんでいます。

日常活動では、職員がラップの芯を口元にあてると耳を近付けてきます。耳元で名前を言つたりやさしい声かけをしたりすると、ここにこと笑います。またやつてというように、ラップの芯を自分に近付けようとす

ます。日常生活では生活の中から見えてくる利用者の行動や表情を基に、利用者一人ひとりの楽しみとは何か、楽しみの要素はどこにあるのか、心が満たされることは何かを考え実施しています。

Aさんは人が後ろを通ることを好み、歩く時は最後尾を歩きます。みんなの動きが見えないと安心できないようで、職員に声をかけられるときも眉間にシワを寄せて嫌そうな表情をすることがあります。しかし、正面や隣に座りやさしい口調で声をかけたり触れたりすると職員の方を見て表情が柔らかになります。何をするのかわからない状況で声をかけられるのは嫌ですが、表情や動きが見えて状況がわかる時はいいようです。リビングにいる時や散歩の時などは体を大きく揺らしていることがあります。リズムに乗って楽しんでいます。



日常活動を通して楽しいと感じ、もっとやりたい、聞きたいなど意欲が湧いたり、気持ちが満たされたりすることを目指し取り組んでいます。今までにない良い表情や表出を引き出せるような時間にしたいと思います。

も、こだわりなどの行動に隠れて見えにくいという特徴があります。日常生活では生活の中から見えてくる利用者の行動や表情を基に、利用者一人ひとりの楽しみとは何か、楽しみの要素はどこにあるのか、心が満たされることは何かを考え実施しています。

Aさんは人が後ろを通ることを好み、歩く時は最後尾を歩きます。みんなの動きが見えないと安心できないようで、職員に声をかけられるときも眉間にシワを寄せて嫌そうな表情をすることがあります。しかし、正面や隣に座りやさしい口調で声をかけたり触れたりすると職員の方を見て表情が柔らかになります。何をするのかわからない状況で声をかけられるのは嫌ですが、表情や動きが見えて状況がわかる時はいいようです。リビングにいる時や散歩の時などは体を大きく揺らしていることがあります。リズムに乗って楽しんでいます。

玉が『コトントン』と落ちる音のリズムに合わせて、身体を小さく左右に揺らすこともあります。ここやかで心地良さそうに揺れています。Aさんが一人で楽しそうに揺れている時に、その揺れに合わせて「トントントン」と声をかけながらタッピングすると、次第に表情が柔らかくなります。活動でのAさんは職員との関わりを心地良く感じ、その中でのリズムを楽しめている様子です。

夏期デイケア実施報告

夏期デイケアは、特別支援学校在学中の児童生徒を対象とした夏休み限定のデイプログラムです。

本年も8/1(月)～8/26(金)の土日を除く4週間で、計20日実施しました。利用登録者は小学部1年～高等部3年の73名で、1日の平均利用者は19名でした。

浜松市内はもとより、磐田市・掛川市・湖西市・袋井市・森町からの利用がありました。



読売療育賞最優秀賞を受賞いたしました

10月に栃木県宇都宮市で行われた第22回重症心身障害療育学会学術集会にて、当施設の演題「横地分類A1重症心身障害入所者の日常活動の検討」を発表し、第7回読売療育賞の最優秀賞を受賞しました。

この受賞により得た評価を支えとし、今後も施設における日常活動が充実したものとなるよう取り組んで参ります。

苦情解決委員会より(2011年7月～2011年9月)

受付日	苦情内容	回答日	苦情解決の結果
2011 7/21	ショートステイ利用者のご家族より「下着が無くなることが度々あったため困っている。どのような管理をしているのか疑問に思った。何とか対策をしてほしい」との訴えがあった。	2011 8/3	衣類の紛失が度々あったことで、大変ご迷惑をお掛けしました。担当部署の責任者より謝罪の上ご理解を頂きました。紛失する事の無い運用に変更いたします。また、他の利用者の皆さんにもお持ち物への記名をしていただくようご協力のお願いをいたしました。
2011 9/14	ショートステイ利用者のご家族より「退所時から本人が泣き止まないため、体を確認したところ苦痛を伴う体位(足の位置)になっていた。また、8月の利用時にも、本人に必要として準備していた物品が本人の側に無かつた事もあり、施設の対応について不信を抱いてしまった」との申し出があった。	2011 9/14	ご本人に苦痛を与えてまい大変申し訳ありませんでした。責任者よりご家族様へ状況説明と謝罪をおこないご理解を頂きました。お身体の情報を職員間で確実に共有できるよう、対応の統一及び徹底を行いました。また、持参物品の管理についても職員間で重要性を再確認いたしました。